

第3回大府市民公開講座 開催結果報告書

難病になっても自分らしく暮らしたい

在宅医療と地域の支え

項目	内容
開催日	令和8年9月6日
時間	13時30分から16時00分
会場	おおぶ文化交流の杜2階会議室
講師	安井直先生
主催	愛知県難病団体連合会 知多支部
参加者	会場50名（うちスタッフ9名）Zoom20名 合計70名
アンケート	回答30件

作成日 令和8年9月9日

1 開催結果の概要

本講座には、会場 50 名（うちスタッフ 9 名）、Zoom20 名の合計 70 名が参加した。会場の一般参加者 41 名のうち 30 名からアンケート回答があり、回答率は 73.2%であった。講座内容、今後への有用性、会場運営はいずれも 8 割以上が肯定的に評価しており、在宅医療を自分や家族の将来に引き寄せて考える機会として、一定の成果が得られた。

指標	結果	所見
参加者数	70 名	会場 50 名（うちスタッフ 9 名） Zoom20 名
アンケート回答	30 件	会場一般参加者 41 名の 73.2%
満足度	73.1%	とても満足又は満足
わかりやすさ	82.1%	とてもわかりやすい又はわかりやすい
今後への有用性	82.8%	とても役立つ又は役立つ
会場 時間 進行	84.6%	とても良い又は良い

2 回答者の構成

回答者は一般市民が 15 名で半数を占めた。家族・介護者 5 名、介護・福祉関係者 4 名、難病患者本人 3 名など、当事者、家族、支援者の複数の立場から回答が寄せられた。

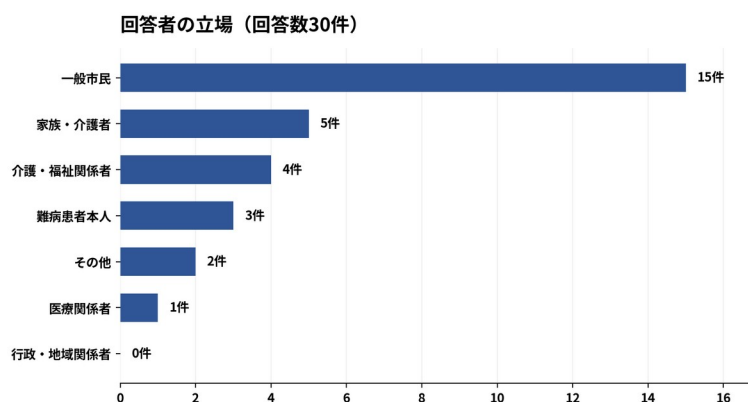


図 1 回答者の立場

3 当日の様子

会場では、参加者が講演資料を手元に置きながら熱心に耳を傾け、質疑や意見交換も行われた。講師と参加者の距離が近く、在宅医療や今後の暮らしについて具体的に考える、落ち着いた学びの場となった。



会場全景



講演に耳を傾ける参加者



開会・主催者挨拶



安井直先生による講演



質疑・意見交換



運営スタッフによる案内

4 講座に対する評価

「内容のわかりやすさ」「今後の生活や相談への有用性」「会場・時間・進行」では、肯定的評価がいずれも8割を超えた。講座全体の満足度は73.1%であり、普通が6件、やや不満が1件であった。不満は0件であった。

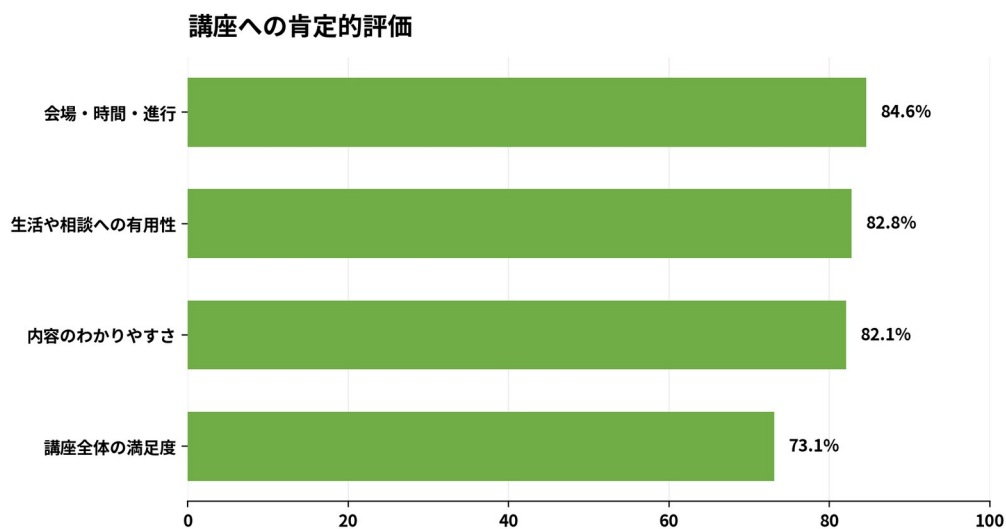


図2 講座に対する肯定的評価

評価項目	肯定的評価	普通	否定的評価	有効回答
講座全体の満足度	19 件 73.1%	6 件	1 件	26 件
内容のわかりやすさ	23 件 82.1%	5 件	0 件	28 件
生活や相談への有用性	24 件 82.8%	5 件	0 件	29 件
会場 時間 進行	22 件 84.6%	3 件	1 件	26 件

注 割合は各設問の有効回答数を分母として算出した。

5 特に参考になった内容

最も多かったのは「夜間・急変時の対応」の15件であった。次いで「在宅医療とは何か」と「一人暮らし・家族が遠方の場合の備え」が各13件、「本人の希望と家族の不安の整理」が12件となった。制度の説明だけでなく、急変時や独居、家族との話し合いなど、暮らしの中で起こる具体的な場面への関心が高かった。

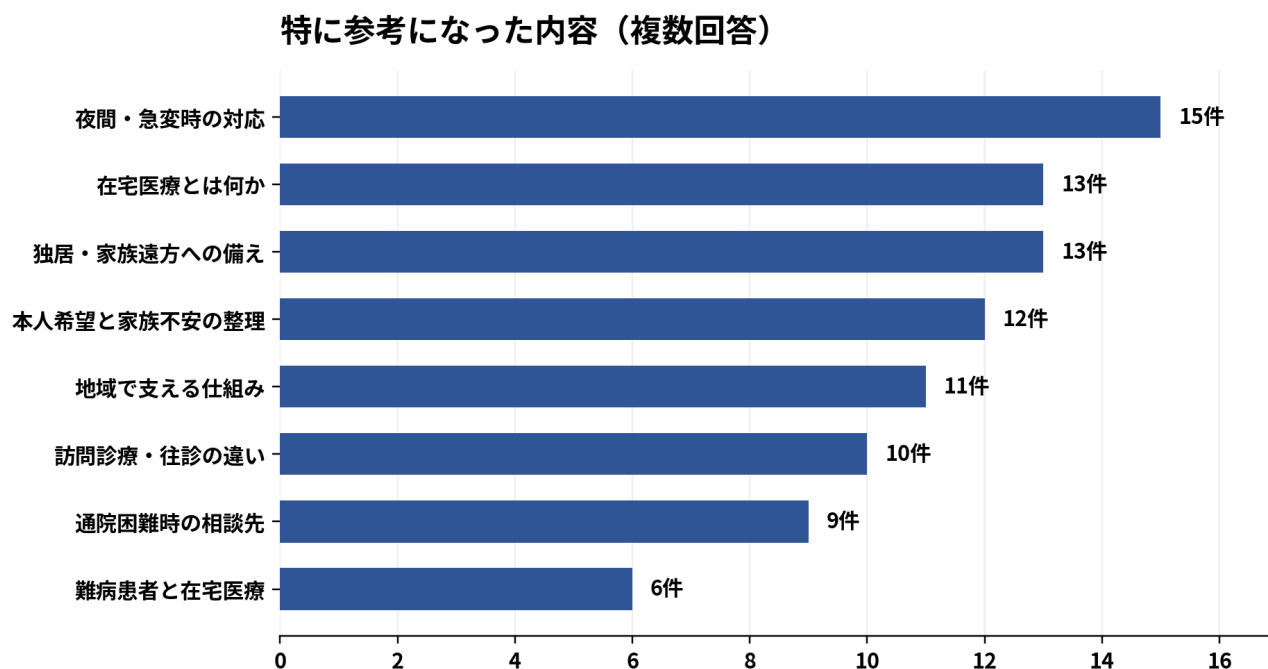


図3 特に参考になった内容

6 今後希望するテーマ

今後聴いてみたいテーマでは、「施設入所と在宅療養の選び方」が14件で最も多かった。次いで「家族介護の負担軽減」11件、「看取り・人生会議」10件であった。療養場所の選択、家族支援、人生の最終段階における意思決定を、次回以降の講座で優先的に扱うことが望まれる。

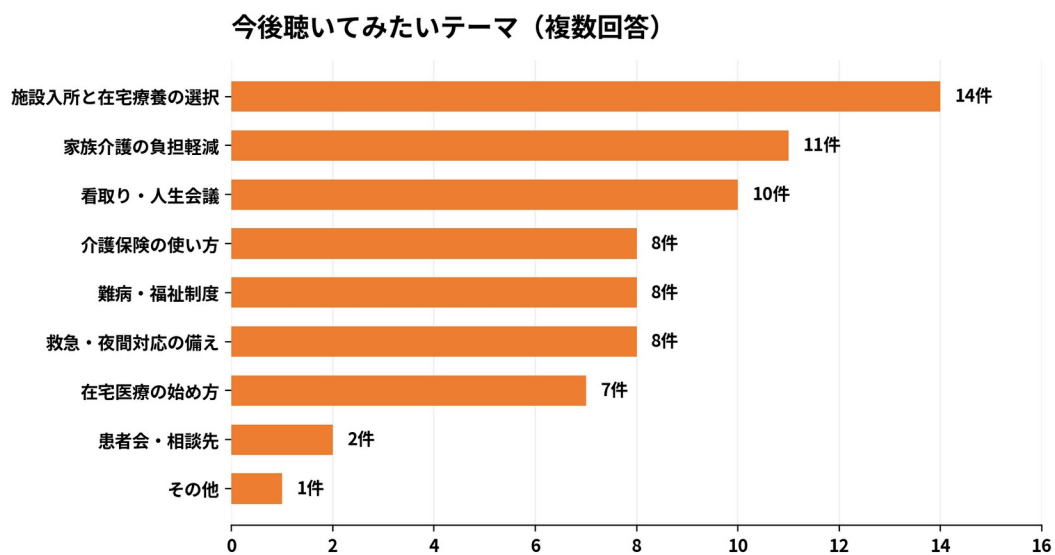


図4 今後聴いてみたいテーマ

7 自由記述からみた成果と課題

自由記述は会場 14 件、オンライン 1 件の計 15 件であった。複数の意見に共通していたのは、元気なうちに本人の希望を話し合うこと、緊急連絡先や医療情報を家族と共有すること、かかりつけ医や地域包括支援センターに相談できる関係をつくることの重要性である。

主な論点	内容
ACP と早期の備え	意思を伝えられる時期から話し合い、将来の体調や生活の変化に備えたい。
相談先と地域連携	かかりつけ医、地域包括支援センター、病院、在宅医療の連携が必要である。
生活と人生を支える医療	病気だけでなく、本人の生活、続けたいこと、家族を支える視点が心強い。
一般市民への周知	専門職と一般市民の情報量の差を踏まえ、より多くの市民に届けてほしい。
具体的な学習要望	訪問看護の実際、難病や一人暮らしの支援、地域の相談窓口を知りたい。
運営上の改善	会場の室温が低すぎたとの指摘と、Zoom 音声聞き取りにくいとの意見があった。

8 総括

本講座は、難病患者の在宅療養を医療制度の説明にとどめず、本人の生活、家族の不安、地域の支援体制を含めて考える機会となった。参加者からは、ACP、急変時への備え、相談先の確認を自分の課題として受け止める意見が多く寄せられた。特に、病気だけでなく生活や人生を見るという在宅医療の考え方が、参加者の安心につながったと考えられる。

9 今後に向けた対応

1. 次回テーマは「施設入所と在宅療養の選び方」を第一候補とし、家族介護の負担軽減、看取り・人生会議を組み合わせて検討する。
2. 地域包括支援センター、訪問看護、在宅医療機関など、大府市内で相談できる窓口を具体的に紹介する。
3. 一般市民にも伝わる言葉と事例を増やし、医療・福祉関係者との情報量の差を小さくする。
4. 会場では開始前と休憩時に室温を確認し、体調に応じて調整できる案内を行う。
5. Zoom 配信は事前の音声テスト、電源接続、予備パソコンでのローカル録画を標準手順とする。

資料

- 1 第3回大府市民公開講座アンケート回答 30 件